

〔報 告〕

男性看護師の就業状況・環境に関する実態 — 男性看護師の年代別での比較 —

Reality for male nurses of employment conditions and environment.
-Comparison in by the age group of male nurses-

上杉 佑也 前田 貴彦 辻本 雄大 立松 生陽 伊藤 大輔

【キーワード】 男性看護師、就業状況、就業環境、年代別

I. はじめに

「看護師」は女性の職業というイメージが根強いが、歴史的には看護に従事する男性も少なからず存在していた。1989年に、それまで男性と女性で異なっていた教育内容が男女同一のカリキュラムに改正され、更に男女雇用機会均等法などの男女平等の理念を背景に、2002年には「看護師」という男女同一名称へ変更となった¹⁾。就業看護師全体における男性看護師の割合は、1982年では1.3%、1994年では2.6%、2014年現在では73,968人で6.8%となっており、ここ10年間の推移を見ても就業男性看護師数は2倍以上に増加している²⁾。また、同様に男性准看護師についても2014年現在では22,877人で6.7%であるが、女性多数の看護師という職業において、男性は依然として少数派の存在といえる。

このような状況に伴い、男性看護師を取り巻く環境には様々な変化があったといえる。例えば、従来、男性看護師は精神科病棟や手術室等への一部の限られた領域に配属される傾向にあった。しかし、1999年の病院看護基本調査によれば、精神科病棟に勤務する男性看護師の割合は44.0%であるものの、その他の病棟の配属率は年々増加傾向にある状態であった³⁾⁴⁾。その後、男性看護師の配属部署に関する大規模な調査はなされていないが、現在では様々な分野で活躍する男性看護師も数多くみられている。

また、男性看護師に関する患者を対象とした調査では役割期待や男性看護師による看護行為の受容状況、男性看護師を対象とした調査では職務満足度や医療職者との人間関係、キャリア形成、職務上の困難といった内容がみられ⁵⁾⁶⁾、徐々に男性看護師の実態が明らか

かになってきている。男性看護師は少数派であるが故に、職務上の就業状況に関する認識や人間関係形成において、女性看護師とは異なる職業経験をしている可能性が考えられる。実際、臨床の場で働く看護師のほとんどが女性看護師であり、そのため、注目される存在になることや、女性看護師と比べ同性同士の情報交換や交流が難しい状況にあると予想される。

このような歴史的背景や就業状況の推移の中で、男性看護師の年代によって、就業状況・環境に関する認識に影響を及ぼすことが考えられるが、このことは明らかになっていない。また、社会人経験者であれば年代が高くても職業経験の浅い男性看護師も居り、例えば年齢が離れていることで若い女性看護師との関係構築に困難さを感じるということが考えられる。年代による認識の特徴を明らかにする事で、その特徴に合った支援を行っていくための基礎資料になりうると考えた。そこで、男性看護師の就業状況・環境に関する実態を明確にするために全国規模での調査を行ったので、ここに報告する。

II. 目的

男性看護師の就業状況・環境に関する実態について年代別での特徴や違いを明らかにする。

III. 方法

1. 対象

全国47都道府県の国公私立大学病院、国立病院機構、公立病院、個人病院等の内、150床以上で複数（2診療科以上）の診療科を有する病院から層化無作為に抽

出した1,150施設の施設代表者に書面を持って調査協力依頼を行い、544施設より了承を得られた。本研究に同意が得られた施設代表者に調査対象者の選出を依頼し、協力の得られた施設に勤務する男性看護師（准看護師含む）8,539名を対象とした。

2. 調査方法

平成24年12月～平成25年4月に選出された対象者に、無記名の選択式一部記述式の自記式質問紙を用いた郵送調査を実施した。質問項目は、先行研究を参考に⁷⁾男性看護師9名で検討し、更に、1年目から看護師長を含む男性看護師10名に2回のプレテストを実施し内容の追加・修正を行った。主な調査内容は、対象者の背景、女性看護師との仕事上の関係づくり、仕事に関する相談相手、就業状況・環境に関することとし、選択式で回答を求めた。選択式の質問項目では、2件法、5件法で回答を求めた。質問紙の配布は協力施設の看護師長等に依頼し、質問紙の回収は、回答者自身による郵送での返送とした。

3. 分析方法

対象者の年齢を20歳代、30歳代、40歳代、50歳代以上の4群に分け、各項目の無回答を除き、記述統計および χ^2 検定と残差分析または一元配置分散分析と多重比較（Games-Howell）を実施した。なお、有意水準は0.05%以下とした。

分析には統計解析ソフトSPSS statistics21を用いた。

IV. 倫理的配慮

本研究は、三重県立看護大学倫理審査会の承認（通知番号122002）を得て実施した。また、必要時研究協力施設の倫理審査委員会に申請し承認を得て実施した。研究対象者への質問紙配布に先立って、対象施設の代表者に研究協力依頼を行い、許可を得た上で対象者に質問紙を送付した。具体的な倫理的配慮として、研究目的・方法、プライバシーの保護と秘密保持、調査協力への自由性、協力可否による不利益の回避、結果の公表について研究協力依頼文に記載した。なお、質問紙の返送をもって本研究への同意とする旨も合わせて記載し、書面にて説明した。よって、質問紙の返送をもって本研究協力への同意とみなした。

V. 結果

1. 回答者の背景

回答者は3,713名（回収率43.5%）であった。平均年齢は33.2±7.8歳（20～64歳）、平均臨床看護経験年数は9.54±7.4年目（1～40年目）であった。勤務施設の所在地は、関東が919名（24.8%）と最も多く、次いで中部785名（21.1%）、近畿617名（16.6%）、中国258名（6.9%）であった。病床数は、「300床以上～500床未満」が1,427名（38.4%）と最も多く、次いで「150床以上～300床未満」905名（24.4%）であった。

2. 現在の配属先

最も多かった配属先は、内科系病棟543名（14.7%）、混合病棟542名（14.7%）、次いで手術室502名（13.6%）、集中治療室463名（12.5%）、外科系病棟461名（12.5%）、精神科病棟258名（7.0%）、整形外科病棟217名（5.9%）であった。

3. 女性看護師との仕事上の関係づくりにおいて苦慮した経験

男性看護師であるため病院や病棟内の女性看護師と仕事上の関係づくりにおいて苦慮した経験が「ある」者の割合は、50歳代以上の46.9%（67名）が最高で他の年代でも40%代であった。また、年代別での差はみられなかった（表1）。

表1 女性看護師との仕事上の関係づくりにおいて苦慮した経験

年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代以上	合計
経験が「ある」(人)	455	579	186	67	1,287
経験年数群の%	41.10%	42.70%	46.00%	46.90%	42.80%
調整済み残差	-1.4	-0.1	1.4	1	
経験が「ない」(人)	651	778	218	76	1,723
経験年数群の%	58.90%	57.30%	54.00%	53.10%	57.20%
調整済み残差	1.4	0.1	-1.4	-1	
合計(人)	1,106	1,357	404	143	3,010

4. 男性看護師は目立つ存在であると思う程度

病院や病棟内で男性看護師は良くも悪くも目立つ存在であると思う程度の平均値は20歳代（1,356名）4.30±0.88が最高で、次いで30歳代（1,677名）4.16±0.93であった。年代別での比較では20歳代、30歳代ともにそれ以降の年代と比較し平均値が有意に高かった

($p<.05-.001$) (表2)。

表2 男性看護師は目立つ存在であると思う程度

年代	n	M(SD) 思う5点 思わない1点	多重比較 (p値)
20歳代	1,356	4.30±0.88	20歳代>30歳代(0.000) 20歳代>40歳代(0.000) 20歳代>50歳代以上(0.000) 30歳代>40歳代(0.001) 30歳代>50歳代以上(0.012)
30歳代	1,677	4.16±0.93	
40歳代	486	3.95±1.06	
50歳代以上	171	3.89±1.10	
合計(人)	3,690	4.17±0.94	

5. 仕事に関する相談相手

仕事に関する相談相手を複数回答で求めた結果、男性看護職者は全体及び20歳代で第1位であり、30歳代以降では第2位であった。20歳代、30歳代、50歳代では同職者である女性看護職者は第4位であった(表3)。

表3 仕事に関する相談相手(複数回答)

	男性看護職者	家族	友人・知人	女性看護職者
20歳代	511	351	383	232
30歳代	552	577	271	260
40歳代	124	162	65	80
50歳代以上	46	56	25	25
合計	1,233	1,146	744	597

(人)

6. 同じ病棟(部署)や病院に男性看護師がいることで心強さや安心感があると感じる程度

同じ病棟や病院に男性看護師がいることで心強さや安心感があると感じる程度の平均値は20歳代(1,265名)4.61±0.80が最高であり、20歳代ではそれ以降の年代に比べ、30歳代では40歳代に比べ平均値が有意に高かった($p<.05-.001$) (表4)。

表4 同じ病棟や病院に男性看護師がいることで心強さや安心感があると感じる程度

年代	n	M(SD) 感じる5点 感じない1点	多重比較 (p値)
20歳代	1,265	4.61±0.80	20歳代>30歳代(0.000) 20歳代>40歳代(0.000) 20歳代>50歳代以上(0.000) 30歳代>40歳代(0.048)
30歳代	1,618	4.37±1.00	
40歳代	460	4.23±1.08	
50歳代以上	165	4.25±1.06	
合計(人)	3,508	4.44±0.96	

7. 今後男性看護師が増加することを期待する程度

今後男性看護師が増加する事を期待する程度の平均値は、20歳代(1,354名)4.16±0.94が最高であった。また、20歳代はそれ以降の年代に比べ平均値が有意に高かった($p<.05-.001$) (表5)。

表5 今後男性看護師が増加することを期待する程度

年代	n	M(SD) 期待する5点 期待しない1点	多重比較 (p値)
20歳代	1,354	4.16±0.94	20歳代>30歳代(0.000) 20歳代>40歳代(0.000) 20歳代>50歳代以上(0.011)
30歳代	1,675	3.97±0.97	
40歳代	487	3.85±1.05	
50歳代以上	171	3.89±1.04	
合計(人)	3,687	4.44±0.96	

VI. 考察

今回の調査では、男性看護師の配属先として、手術室、集中治療室、精神科等といった専門的で従来から配属の多いとされてきた部署が3割を占めていた。しかし、以前の調査では精神科以外の病棟への配属率が20%台であったのに対し³⁾⁴⁾、今回の調査結果では40%以上という結果であった。このことから、内科系、混合病棟、外科系病棟等といった一般病棟にも多く配属されていることが明らかとなり、現在では多くの分野で男性看護師が活躍していることが示唆された。この背景として、近年における男女区別の無い教育や、専門職業人として看護師を位置づける動き、およびジェンダーフリー教育などの社会の動向が影響している⁸⁾と考えられている。また、管理者や女性看護師は男性看護師ならではの役割に期待していることや⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾、男性看護師と接した経験の有る患者は男性看護師に対して肯定的な印象に変化している¹²⁾¹³⁾、といった報告がなされている。このような男性看護師に対する需要や患者及び女性看護師の認識の変化も、男性看護師が多様な領域に進出する後押しとなっていると考える。

次に、男性看護師であるため病院や病棟内の女性看護師と仕事上の関係づくりにおいて苦慮した経験が「ない」者の割合は、どの年代においても半数以上であり、年代に関係なく半数以上の者が女性看護師と良好な関係をつくっているといえる。一方、各年代40%の男性看護師は何らかの苦慮した経験を有しているとも言い換えることが出来る。男性看護師は、女性看

看護師との物事の見方や考え方などの違いから生じるズレやコミュニケーションの難しさ、少数派ゆえに自己を抑制せざるを得ない状況に困難を感じており¹⁴⁾¹⁵⁾¹⁶⁾¹⁷⁾、女性看護師との人間関係形成に努力を要していることが伺える。また、新人看護師であれば先輩看護師に指導を受ける立場、管理職相当の役職であれば部下に指導する、あるいは上司との調整役での立場といったように、各年代において女性看護師との関係性にも変化が生じる。両者の関係性の変化により、ハラスメントととられないかと考えることで指導する上で遠慮が生じる等といった、苦慮する経験の内容が異なるため、年齢を重ねるにつれ苦慮する経験は増加すると考えられる。そのため、20歳代よりもそれ以降の年代の男性看護師のほうが女性看護師との仕事上の関係づくりにおいて苦慮した経験を有しているという結果に繋がったと考えられる。一方で、女性看護師もまた、男性看護師との職場での関係づくりや看護の特徴の違いを感じており¹⁸⁾、男性看護師との人間関係形成において苦慮していることが伺える。双方が互いの認識や特徴を理解することが、より良い人間関係を作るために必要であると思われる。

男性看護師には、看護集団における性の異なる少数者ゆえの職業経験があると指摘されており¹⁹⁾、そして、性という社会的属性は、多数派集団においても目立ちやすく、良くも悪くも極端な印象や評価を得やすいことが考えられる。本研究では、男性看護師が目立つ存在であると思う程度は、20歳代の平均値が最高で、年代の若い男性看護師ほど、良くも悪くも目立つ存在であると考えていることが示唆された。男性看護師が目立つ存在と考える内容については、男性性により優遇されている部分がある等²⁰⁾²¹⁾、肯定的に受け止めている部分もあるが、「技術の失敗が目立ちやすいことにプレッシャーを感じる」「個人の失敗や意見が男性看護師全体として捉えられる」といった否定的な思いも抱いている¹⁷⁾。20歳代の年代の若い男性看護師は、職業経験の浅い者が多く属する年代といえる。ゆえに、看護に関する知識や技術が未成熟であるため、より否定的な側面で目立つと感じやすいことが考えられ、今回の結果に繋がったことが推測される。

本研究結果の特徴として、20歳代を中心に比較的年代の若い男性看護師ほど、同性である男性看護師に心強さや安心感があると感じたり、相談相手として男性

看護職を選択していたり、男性看護師の増加を望んでいるということが示唆された。20歳代は仕事の裁量度が低く職業経験も浅いため、仕事に対する不安を感じやすい事が指摘されている²²⁾。加えて、男性看護師は性差に伴う患者からのケアの拒否といった男性看護師特有の職業経験を有するために、女性看護師とは異なる不安感を抱くことが推測される。更に、女性看護師との人間関係形成が十分でないため、看護師集団の中で孤独感を抱きやすいと考えられる。ところで、男性と女性では、物事に対する価値観や取り組み方、思考等に相違があったり²³⁾、特に精神面では同性でないとは分かり合えない部分もある²⁴⁾。そして、男性看護師は、同性の男性看護師に相談する事等によって、ストレスを緩和させることや、男性の仲間でありがたさを感じていることが報告されており¹⁵⁾¹⁶⁾²⁵⁾²⁶⁾²⁷⁾、男性看護師特有の職業経験は、同じ経験を有しているものでなければ共感を得られにくいことが考えられる。

以上を踏まえて考えると、年代の若い男性看護師ほど不安や孤独を感じやすいため、同性同職である男性看護師の存在に心強さや安心感を得ていることが推察される。加えて、女性看護師との人間関係形成において苦慮していることも、圧倒的多数である女性看護師よりも男性看護職を相談相手として選択している要因と考えられる。そして、これらの認識から同性の看護師の増加を望むことに繋がっているものと推測される。これらは看護師としての職業経験を積み、知識や技術の向上、看護観の確立、スタッフとの関係構築などによって、それらの困難を性差に伴う制約と考えずに肯定的に捉えられるようになるため¹⁰⁾、20歳代以降で男性看護師への安心感を持つことや増加することへの期待が減少しているものと考えられる。

今回の結果から特に職業経験が浅い男性看護師においては、職業経験の豊富な男性看護師を複数配置するなど、身近に男性看護師が存在する事が働きやすい環境の一つになると考えられる。しかし、男性看護師の複数配置の効果については、バーンアウトの側面からは認められず、男性看護師の配置率とストレスの知覚には相関関係はなかったと報告されている²⁸⁾²⁹⁾。一方で、配置率の低いほうがストレスに対する知覚の合計点は高かったり²⁵⁾、男性看護師の困難感に関する研究結果では複数配置の必要性が述べられていたり、今回の結果から男性看護師に安心感をもたらす存

在として意義は大きいと考えられる。そのため、安心感という側面から複数配置の必要性を検討していくことが重要であると考えられる。

本研究の限界と今後の課題

本研究は、対象者の背景として、年齢に軸を置き分析を行った。質問項目に対する回答者の認識や男性看護師と接する機会の程度によっても、回答に影響することが考えられ、回答に偏りを生じた可能性は否めない。男性看護師の背景により結果に違いが生じることが予想されるため、今後、背景との関連についても検討する必要があると思われる。

Ⅶ. 結論

1. 男性看護師は良くも悪くも目立つ存在であると思う程度は20歳代、30歳代で有意に高かった。
2. 同じ病棟や病院に男性看護師がいることで心強さや安心感があると感じる程度は、他の年代と比較して20歳代で有意に高かった。
3. 今後、男性看護師が増加する事を期待する程度は、他の年代と比較して20歳代で有意に高かった。
4. 仕事に関する相談相手としては、「男性看護職者」が最も多く、特に20歳代では第1位であった。

【謝 辞】

本研究の実施にあたり、ご理解とご協力を賜りました看護部長様、並びに質問紙にご回答を頂いた男性看護師の皆様には厚く御礼申し上げます。

なお、本研究は、平成24年度三重県立看護大学学長特別研究費で実施した研究の一部である。また、本研究の一部を第34回日本看護科学学会学術集会（看護管理）で発表した。

【文 献】

- 1) 山崎裕二：男性看護職の歴史的変遷と現在 今日 的課題と期待される点，看護教育，52(4)，264-268，2011
- 2) 平成26年度衛生行政報告例，2015/9/4.
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&listID=000001135697&requestSender=estat
- 3) 日本看護協会：日本看護協会調査研究報告1995年

病院看護基礎調査，44，1997

- 4) 日本看護協会：日本看護協会調査研究報告1999年病院看護基礎調査，45，2001
- 5) 竹井留美，横内光子：男性看護師に関する研究の動向，日本看護研究学会誌，34(3)，404，2011
- 6) 矢島直樹：臨床での男性看護師の実態に関する文献検討と支援のあり方の一考察，福井県立大学論集，44号，147-163，2015
- 7) American Assembly for Men in Nursing BERNARD HODES GROUP：Men in Nursing Study.Hodes Research,2013/10.17
<http://aamm.org/docs/meninnursing2005survey.pdf>
- 8) 明野伸次：男性看護師に対する業務評価・役割期待に関しての文献的考察，北海道医療大学福祉学部紀要，11，95-100，2004
- 9) 高尾辰徳，阪下順一，高橋優太，他：男性看護師が職場環境に与える影響，日本看護学会論文集 看護管理，43，483-486，2013
- 10) 袴田将嗣，岩田浩子：一般病棟における男性看護師の役割に対する管理者の意識の検討，日本看護学会論文集 看護管理，34，408-410，2003
- 11) 貝沼純，斎藤美代，佐藤尚子，他：女性看護師が男性看護師に期待する職務・役割に関する調査研究，福島県立医科大学看護学部紀要，10，23-30，2008
- 12) 大山祐介，戸北正和，小川信子，他：男性看護師に対する女性患者の認知度とニーズに関する研究，保健学研究 19(1)，13-19，2006
- 13) 小嶋亜紀子，筑後幸恵：男性看護師に対する入院患者の受容，日本看護学会論文集 看護管理 35，366- 368，2004
- 14) 吉田裕二郎，赤司 千波：病棟における看護において男性看護師が感じる困難とその対応ー整形外科病棟と外科病棟勤務者に焦点を当ててー，日本看護学会論文集 看護総合，41号，24-27，2010
- 15) 高橋良，田中真琴，任和子：一般病棟に勤める男性看護師が職場で感じる困難とその対処，京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要，健康科学，9，41-51，2014
- 16) 松浦圭吾，大林けい，児島香織，他：一般病棟における男性看護師が感じる困難とその対処に関する研究，日本看護学会論文集 看護総合，43号，

227-230, 2013

て -, 日本看護評価学会誌 1(1), 3-10, 2011

- 17) 坪之内建治, 有田広美: 男性看護師が感じる困難とそれらの困難を経験して成長する過程, 日本看護学会論文集 看護管理, 39号, 309-311, 2008
- 18) 浦中桂一, 水野正之, 小澤三枝子: 男性看護師の複数配置の評価 -バーンアウトスコアを指標として-, 日本看護評価学会誌, 1(1), 3-10, 2011
- 19) 北林司, 萩原英子, 鈴木珠水, 他: 臨床で男性看護師が経験する女性看護師との差異, 群馬パース大学紀要, 5, 59-64, 2007
- 20) 北林司: 男性看護師が認識する男性であることの特異性 X県におけるインタビュー調査から, 看護学雑誌, 66(11), 1022-1027, 2002
- 21) 松田安弘: 看護における性の異なる少数者の経験 男子看護学生と男性看護師の経験の統合, 看護研究, 37(3), 253-262, 2004
- 22) 柳沢由美, 金澤靖子, 久保智子, 他: 年代別からみた看護師のストレスの特徴 - 職業性ストレス簡易調査票を用いて -, 日本看護学会論文集 看護管理, 36, 46-49, 2005
- 23) アランピース, バーバラピース: 話を聞かない男、地図が読めない女 男脳・女脳が「謎」を解く, 143-169, 主婦の友社, 東京, 2002
- 24) 畠山和人: 管理者から見た男性看護師の現在とこれから, 看護教育, 45(11), 1038-1047, 2004
- 25) 緒方昭子, 内柱明子, 土屋八千代: 新人男性看護師の経験 - 2年目新人看護師の語りから -, 南九州看護研究誌, 8(1), 33-39, 2010
- 26) 前川寿徳, 末村任, 栗田富佐江, 他: 男性看護師の声から考えた職場環境の支援策. -職務上での悩みやストレス に対する面接を通して-, 日本看護学会論文集 看護管理, 44, 71-74, 2014
- 27) 田渕智之, 吉川三枝子: 新人男性看護師の職場環境における人間関係の形成, 日本看護学会論文集 看護総合, 42, 150-153, 2012
- 28) 松尾新也, 小林治子, 黒柳一枝, 他: 男性看護師の配置率とストレスに対する知覚との関係 -A件の総合病院に勤務する男性看護師の質問紙調査より-, 日本看護学会論文集 看護管理, 38, 366-368, 2007
- 29) 浦中桂一, 水野正之, 小澤三枝子: 男性看護師の複数配置の評価 -バーンアウトスコアを指標とし